

所属研究団体日本遺伝学会 令和2年度 事業報告

事業の概要

本会は遺伝に関する研究を奨め、その知識の普及をはかるため、下記諸事業を行った。

1. 学会誌Genes & Genetic Systemsの発行(隔月1回)

- (1) Vol 95 No.1~No.6を発行した。
- (2) 日本出版貿易を通じて、国内外の購読機関に頒布した。
- (3) 論文の別刷の注文を受け付けし、2件17,000円の売り上げを計上した。(95-4まで)
- (4) 今年度のGGS PRIZE 2020は3件を授与した。

Title

Spontaneous de novo germline mutations in humans and mice: rates, spectra, causes and consequences

Author

Mizuki Ohno

Published in Genes & Genetic Systems 2019, 94(1):13-22.

Title

Defects in the NuA4 acetyltransferase complex increase stability of the ribosomal RNA gene and extend replicative lifespan

Authors

Tsuyoshi Wakatsuki, Mariko Sasaki, Takehiko Kobayashi

Published in Genes & Genetic Systems 2019, 94(5):197-206.

Title

Two-dimensional site frequency spectrum for detecting, classifying and dating in complete selective sweeps

Authors

Yoko Satta, Wanjing Zheng, Kumiko V. Nishiyama, Risa L. Iwasaki, Toshiyuki Hayakawa, Naoko T. Fujito, Naoyuki Takahata

Published in Genes & Genetic Systems 2019, 94(6):283-300.

2. 年次大会の開催

日本遺伝学会第92回大会を令和2年9月16日(水)~18日(金)、くまもと県民交流館パレアにて開催予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大防止の為、プログラム・予稿集の発行をもって大会開催とした。

(プログラム・予稿集には、演者が決まっていたシンポジウム2件20演題、ワークショップ9件45演題、一般演題数89題、ポスター発表31題が掲載)

また、9月18日(金)には、総会と木原賞1名、奨励賞2名の授賞式と受賞講演をZOOMで行った。公開市民講座『ヒトを超える!?スーパー生物のまうごつ楽しかあ遺伝学』については、来年3月6日(土)に実施した。

これにより以下の予定を中止とした。

- (1) 学会員を対象とした一般口頭発表等
- (2) 海外より研究者を招聘した遺伝学会100周年記念国際シンポジウム
- (3) 公募による特定のテーマでのワークショップ

- (4) シニア会員企画による、長年の経験や立場の異なる視点から見たアドバイスなどを若い会員に伝えるワークショップ
- (5) 大会で発表する学生の大会参加旅費一部の援助
- (6) 男女共同参画推進の一環として大会へ参加するための支援
- (7) 第91回大会Best Paper賞受賞者によるプレナリーワークショップ
- (8) 一般口頭発表者から優れた成果を発表した者へのBest Paper賞候補者の選考
- (9) ポスター発表者（学部学生、修士課程の学生）へのポスター賞（Young Best Poster賞）の授与
- (10) 台湾(Academia Sinica)から学生2名を招聘し、大会での口頭発表参加、大会後に日本人研究者への研究室訪問の支援

3. 春季分科会

今年度は行わなかった。

4. 木原賞・奨励賞の授与

6月24日にZOOMにて開催された学会賞選考委員会で審議の結果、次の会員を授賞者とした。

木原賞: 深川 竜郎会員

奨励賞: 古郡 麻子会員、稲垣 宗一会員

5. 遺伝学談話会の開催

今年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止の為、開催なし。

6. 委員会の活動等

(1) 遺伝学教育用語検討委員会

「中等教育における「ヒトの遺伝」導入に向けた joint meeting」WEB会議に参加した。遺伝単の改訂版の編集、出版を行った。

(2) 男女共同参画推進委員会

本学会は男女共同参画推進学協会連絡会に加盟しており、シンポジウム等にZOOMにて参加した。

(3) 生物科学学会連合

生物科学連合の次期代表選挙の候補者として小林会長を推薦し当選した。本年度は生物多様性に関するシンポジウムをWEB開催した。

(4) 自然史学会連合

本学会は自然史科学の研究・教育の振興を目的として、動物学・植物学・地学など主に基礎的な野外研究に関連する学会と協力して、関幅広い活動を進めた。

(5) シニア活性化委員会

退職する研究者の最終講義のビデオの収集活動を開始した。普及会のシニア科学アカデミーと連携して管理公開する。

7. 運営規則について

令和2年9月18日に第9条を改正し、令和2年9月19日から施行した。

改正前	改正後
第9条 (7) 評議員会は会員を代表して、事業計画、経費の収支、予算・決算、学会誌の発行、大会の開催、その他重要事項について審議し、出席評議員の過半数をもって議決する。決議された事項は財団理事会の承認を得るものとする。	第9条 (7) 評議委員会は会員を代表して、事業計画、経費の収支、予算・決算、学会誌の発行、大会の開催、その他重要事項について審議し、出席評議委員の過半数をもって議決する。 評議委員会は全評議委員の3分の2以上の出席をもって成立とする。やむおえない事情の場合、委任状の提出あるいはオンライン参加も参加とみなすことができる。 決議された事項は財団理事会の承認を得るものとする。

8. 2021・2022年度日本遺伝学会会長及び評議委員について

8月17日に2021・2022年度日本遺伝学会会長及び評議委員選挙の投票結果を選挙管理委員会で確認し、次期会長に岩崎博史会員が就任予定と総会で報告、承認された。評議委員については、内諾をいただいた。

2021・2022日本遺伝学会 会長・幹事・評議委員一覧（敬称略）

評議委員

会長	岩崎 博史
担当幹事	
国内庶務	野々村 賢一 平田 たつみ
渉外庶務	菱田 卓
会計	北野 潤
編集	荒木 弘之 榎屋 啓志
企画集会	沖 昌也 Jeff Farcett 中別府 雄作
将来計画	佐瀬 英俊 杉本 道彦 荒木 喜美 佐々木 真理子 村山 泰斗
男女共同参画推進	一柳 健司 大野 みずき
広報担当、ホームページ編集	遠藤 俊徳 宮城島 進也
遺伝学普及・教育	村井 耕二 二階堂 雅人
シニア活性化	池村 淑道 真木寿治
会計監査	鐘巻 将人
会計監査	加納 純子

地区名	氏名
全国	木下 哲
全国	小林 武彦
全国	黒岩 麻里
全国	仁木 宏典
全国	仁田坂 英二
全国	佐渡 敬
全国	颯田 葉子
全国	篠原 美紀
全国	高野 敏行
全国	田村 浩一郎
北海道地区	金澤 章
北海道地区	久保 友彦
東北地区	大学 保一
東北地区	愿山 郁
関東地区	澤村 京一
関東地区	権藤 洋一
東京地区	高橋 文
東京地区	近藤 るみ
中部地区	佐藤 豊
中部地区	古賀 章彦
関西地区	菅澤 薫
関西地区	関 由行
中国・四国地区	千木 雄太
中国・四国地区	田中 若奈
九州地区	石黒 啓一郎
九州地区	手島 康介